

# ピザ PISA (OECD生徒の学習到達度調査) の概要

(PISA=Programme for International Student Assessment)

※OECD (経済協力開発機構) において実施

## 目的

- 義務教育終了段階 (15 歳) において、それまでに身につけてきた知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを測る。(※学校カリキュラムの習得を測るものではない。)

## 内容

- 読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの 3 分野の調査  
(実施年によって中心分野を設定して重点的に調査)

(※13 種類の内容が異なる問題冊子を使用し、生徒は 1 種類の問題冊子を 2 時間で回答。)

- あわせて、生徒質問紙、学校質問紙による調査を実施。

## 対象

- 調査段階で 15 歳 3 か月以上 16 歳 2 か月以下の学校に通う生徒  
(日本では高等学校 1 年生が対象)

(※2009 年調査では、国際ルールに基づいて無作為抽出した結果、我が国から、高等学校・中等教育学校後期課程・高等専門学校のうち、185 校 (学科)・約 6,000 人が参加。)

## 調査実施年

- 2000 年から 3 年ごとに実施。  
2000 年は読解力、2003 年は数学的リテラシー、2006 年は科学的リテラシーを中心分野として調査し、2009 年は 2 度目の読解力中心の調査を実施。

### 【今後の予定】

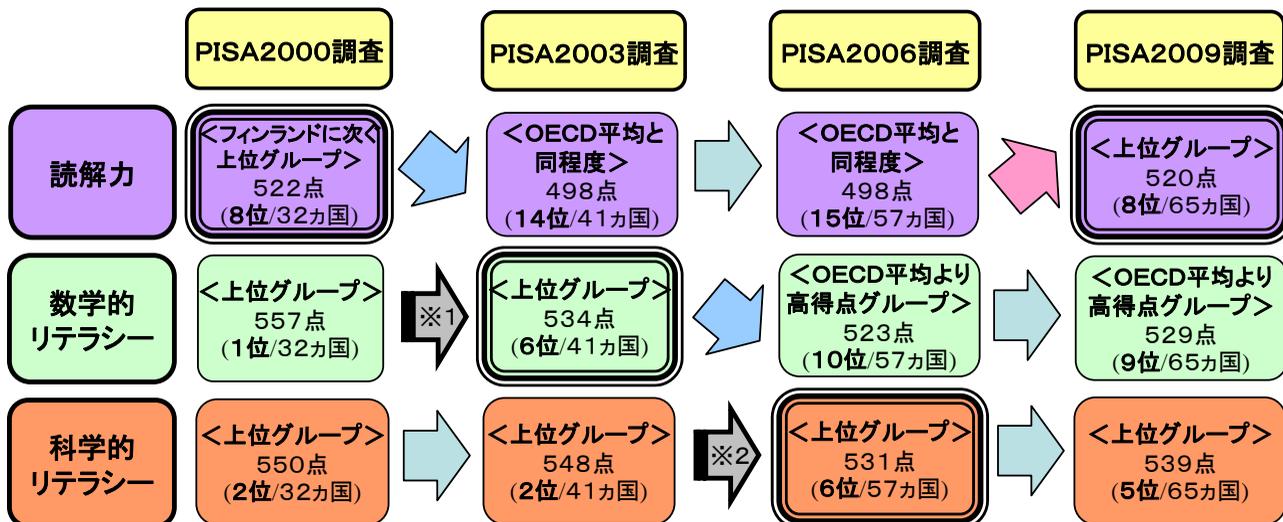
- 2012 年 数学的リテラシー (結果公表は 2013 年末頃)
- 2015 年 科学的リテラシー

# OECD生徒の学習到達度調査(PISA)の結果

「活用する力」を調査するPISA調査※においては、読解力を中心に生徒の学力は改善傾向

※PISA: OECDが実施する15歳児(高校1年生)を対象とした国際学習到達度調査  
2000年から3年ごとに実施し、2012年は数学的リテラシーを中心分野として実施(調査結果は、2013年末に公表予定)

## OECD「生徒の学習到達度調査(PISA)」における順位の推移



※1 2000年、2003年の共通領域の結果で比較

※2 出題の枠組みが変わったため、比較可能な共通問題の結果で比較

## PISA2009の結果

○読解力を中心に我が国の生徒の学力は改善傾向にある。

・各リテラシーとも、2006年調査と比べて、レベル2以下の生徒の割合が減少し、レベル4以上の生徒の割合が増加している。

・しかしながら、トップレベルの国々と比べると成績の下位層が多い。

○読解力の習熟度レベル別割合

	レベル1 以下	レベル2	レベル3	レベル4 以上
日本	13.6%	18.0%	28.0%	40.4%
上海	4.1%	13.3%	28.5%	54.1%
韓国	5.8%	15.4%	33.0%	45.8%
フィンランド	8.1%	16.7%	30.1%	45.1%

○読解力については、必要な情報を見つけ出し取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることがやや苦手である。

○数学的リテラシーについては、OECD平均は上回っているが、トップレベルの国々とは差がある。

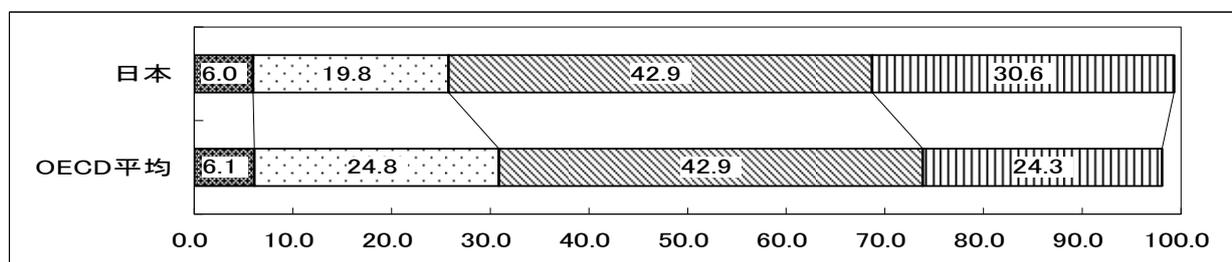
# OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）における生徒質問紙調査の結果 （主体的に学習に取り組む意欲・態度に関連する項目）

- PISA の生徒質問紙調査の結果では、「学習に主体的に取り組む意欲・態度」に関連する項目に肯定的な回答をした生徒の割合は OECD 平均より低くなっている。
- 「学習に主体的に取り組む意欲・態度」に関連する項目に肯定的な回答をした生徒の方が、平均得点が高い傾向が見られる。

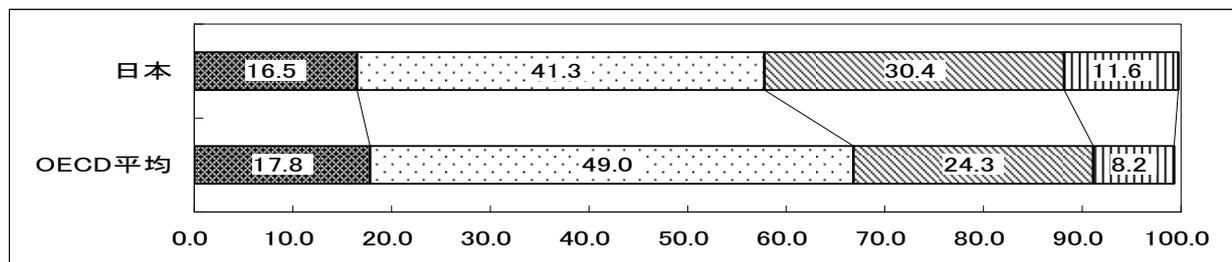
※調査対象：義務教育終了段階の15歳児（我が国では、高校1年生を対象）



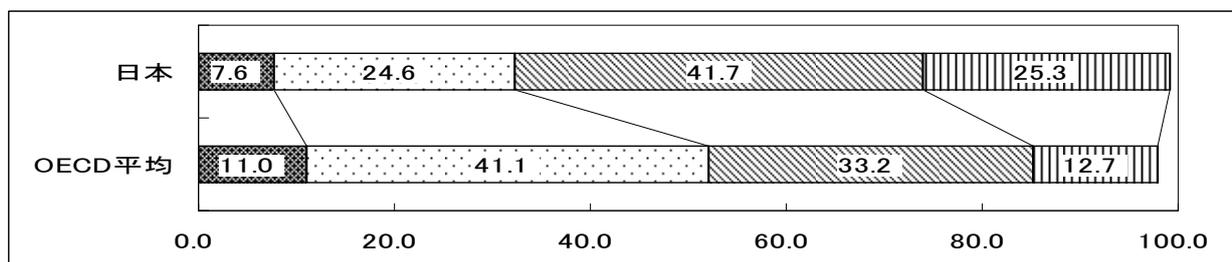
## ○数学の授業が楽しみである



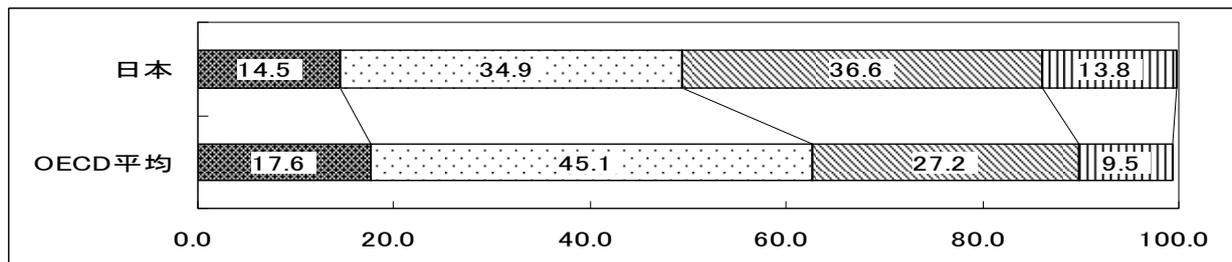
## ○科学について知識を得ることは楽しい



## ○数学で学ぶ内容に興味がある

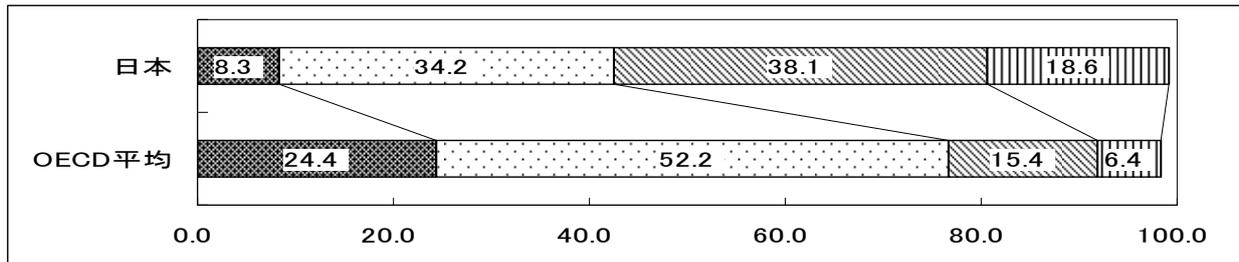


## ○科学について学ぶことに興味がある

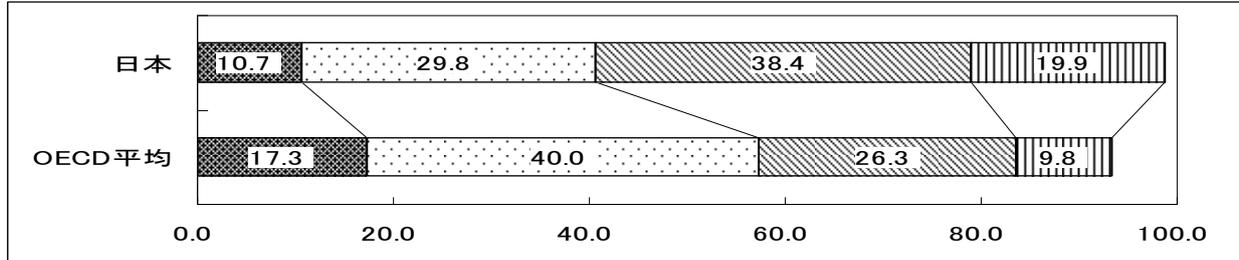


全くそうだと思う
  そうだと思う
  そうは思わない
  全くそう思わない

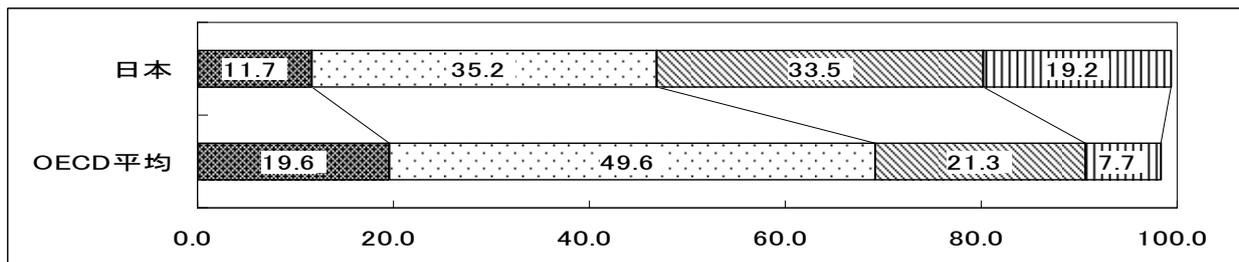
○将来の仕事の可能性を広げてくれるから、数学は学びたい



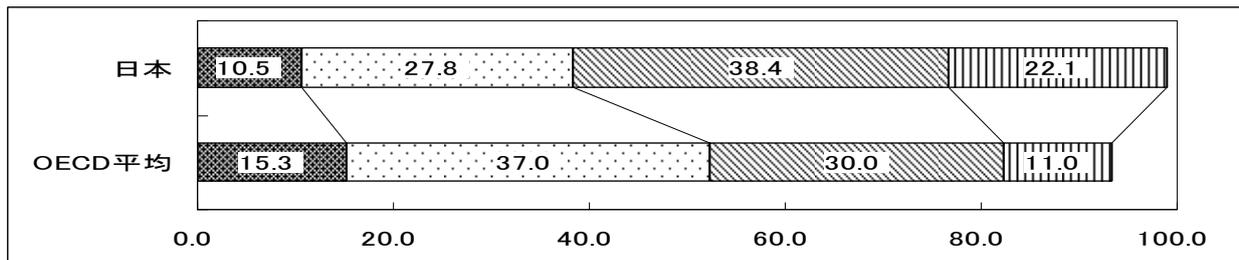
○理科の科目を勉強することは、将来の仕事の可能性を広げてくれるので私にとってやりがいがある



○これから数学でたくさんのことを学んで、仕事につくときに役立てたい

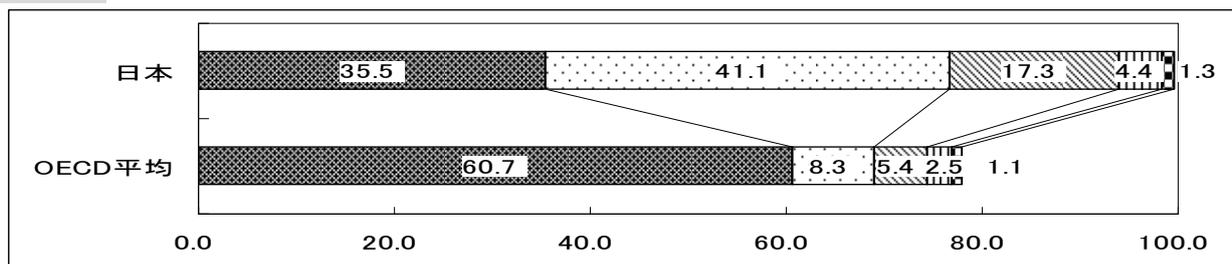


○私は理科の科目からたくさんのことを学んで就職に役立てたい

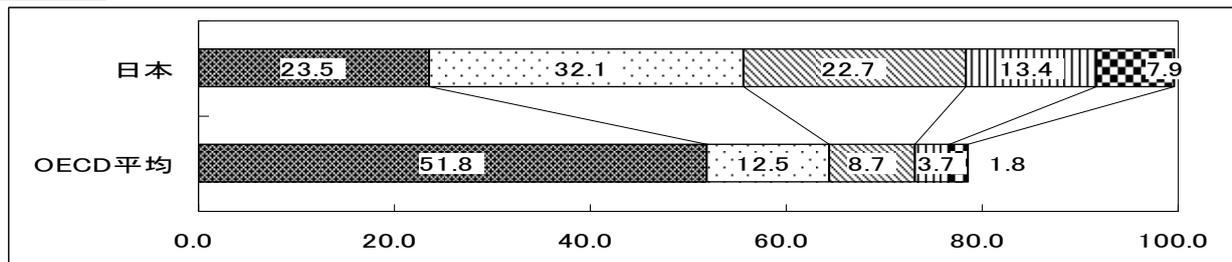


まったくしない
  週に2時間未満
  週に2時間以上4時間未満
  週に4時間以上6時間未満
  週に6時間以上

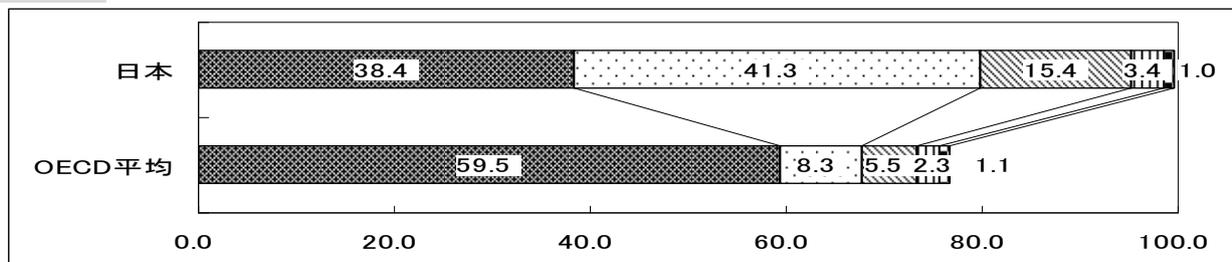
○あなたは、普段の授業以外に、1週間にどのくらい勉強していますか（学校、家、その他の場所）  
 （国語）



（数学）



（理科）



※数学に関する項目は PISA2003、科学、理科に関する項目は PISA2006 の結果

※合計割合が 100%にならない項目は無解答の生徒がいるためである

出典 OECD PISA データベース

# OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）2009 の結果における 家庭背景と生徒の学力との関係について

## 生徒の社会経済文化的背景指標と各リテラシーの平均得点との関係

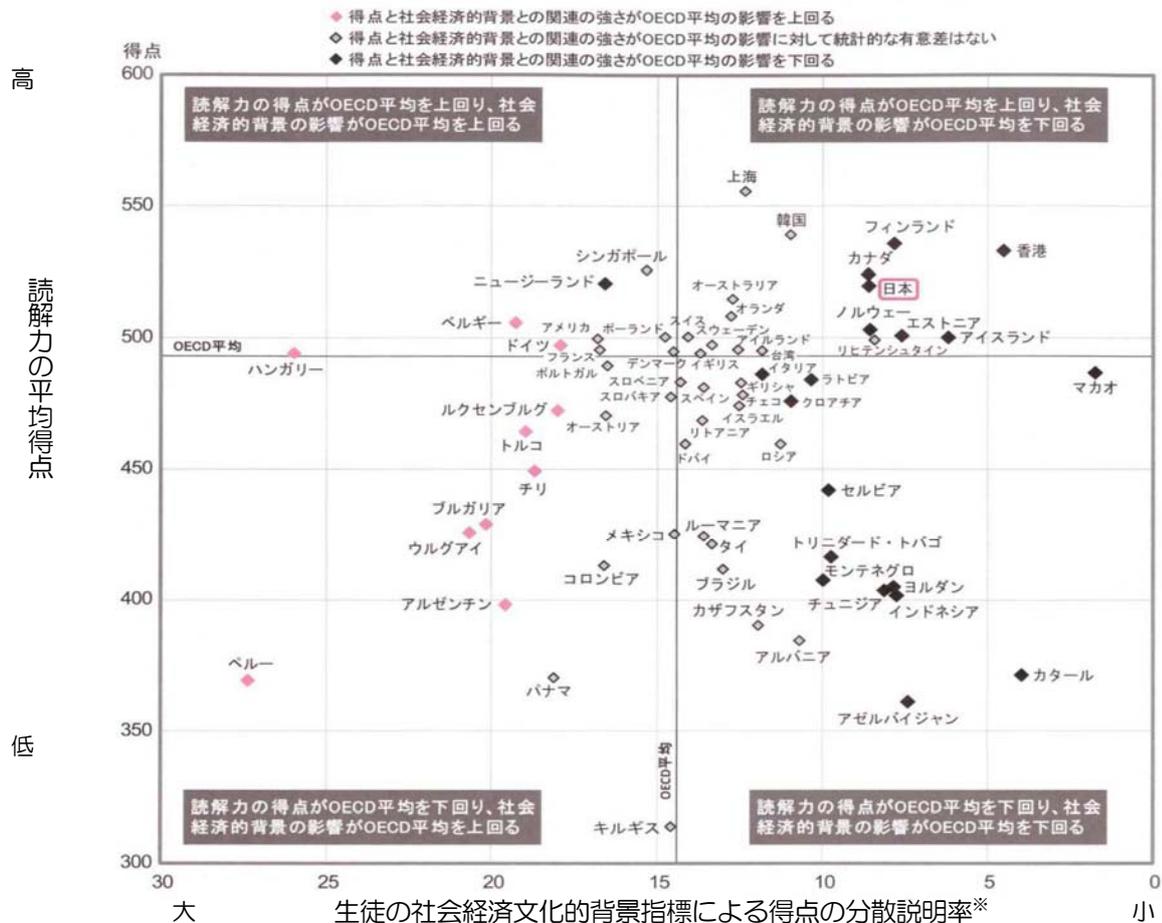
国際的に社会経済文化的水準が高いほど生徒の平均得点が高いという傾向が見られるが、我が国は、社会経済文化的水準が高い生徒と低い生徒の平均得点の差は OECD 平均より小さく、生徒の学力に対する社会経済文化的背景の影響は小さい。

### 【社会経済文化的水準が高い生徒と低い生徒の平均得点】

国名	生徒の社会経済文化的背景指標値での上位25%の生徒			生徒の社会経済文化的背景指標値での下位25%の生徒			上位25%の生徒と下位25%の生徒との得点の差		
	読解力	数学的リテラシー	科学的リテラシー	読解力	数学的リテラシー	科学的リテラシー	読解力	数学的リテラシー	科学的リテラシー
日本	557	564	573	482	491	503	75	73	70
アメリカ	558	544	561	452	441	453	106	103	108
イギリス	543	540	568	450	450	467	93	90	101
韓国	572	586	571	504	504	502	68	82	69
フランス	553	556	556	443	442	445	110	114	111
OECD平均	540	544	548	451	452	457	89	92	91

※ 社会経済文化的背景指標値とは、保護者の教育的背景（学歴）、家庭の社会経済的背景（職業）、家庭の所有物に関する指標から構成された指標であり、この値が高いほど、生徒の社会経済文化的水準が高いことを示している。

### 【生徒の社会経済文化的背景と読解力得点との関連の強さ】



※ 生徒の社会経済文化的背景指標による得点の分散説明率は、生徒の社会経済文化的背景が読解力の平均得点に及ぼす影響度合を示すもので、数値が低いほど影響が小さいことを示す。

(日本:8.6%、OECD 平均:14.0%)

出典「生きるための知識と技能」(国立教育政策研究所)